

和琴半島を歩こう！



季節ごとに違う表情があります



阿寒国立公園

魚の尾のくびれたところ

火山活動が活発だったこの地で、約3万年ほど前にマグマを噴出した場所の地下に空洞ができ、地面が落ち込んでできたのが巨大な屈斜路カルデラです。このくぼ地に水がたまり、屈斜路湖の原型ができました。和琴半島はもともと、屈斜路カルデラが形成された後の火山である、オヤコツ溶岩円頂丘の溶岩ドームでした。つまり屈斜路湖内にできた単独の火山島だったので

さらに長い時間を経て、土砂が堆積し、湖岸の扇状地とつながって現在のような半島になりました。

「和琴」とは、“魚の尾のくびれたところ”を意味するアイヌ語のワコッチが語源とされています。そして大正10年に、この場所を訪れた紀行作家・大町桂月によって漢字が充てられました。

半島の特徴が育んでいる自然

現在でも、和琴半島は全体的に地熱が高く、冬でも凍結しない場所が多くあります。随所で温泉が湧くようすも見られ、半島先端のオヤコツ地獄では、噴気があがっています。

地温が高いと、土の分解が早くなって土壌も肥沃になります。ここは針葉樹と広葉樹が交じる豊かな森林に覆われています。鳥類も山野鳥から水鳥まで多くの種類が観察でき、1年を通してバードウォッチングにも人気のスポットです。



▲ヤマゲラ



▲オオアカゲラ

北限に生きるミンミンゼミ

7月になると、和琴半島では「ミンミンミンミー」というセミの声が聞こえてきます。この鳴き声が響くのは、北海道東部では唯一、和琴半島だけという実は貴重な声の主、それは昭和26年に国の天然記念物に指定されている「和琴ミンミンゼミ」です。

北海道が今よりも温暖だった6000～8000年ほど前、ミンミンゼミは北海道全域に広く分布していたようです。しかしその後の寒冷化によって生息域が狭められ、わずかに地温の高い和琴半島だけに生き残ったといわれています。セミは幼虫時に土中で過ごすことから、地熱によって地面が凍結しにくいことも大きな要因だったのでしょう。

毎年9月上旬ごろまで、聞くことができます。

厳冬期でも緑のコケと虫の声

オヤコツ地獄の近くに、階段があります。その横は、これまでの探勝路沿いに続いていた森とは一風変わった景観が見られます。

耳を澄ますと、「ジージー」という声が聞こえてきます。コオロギの仲間「マダラスズ」の鳴き声です。体長は6～12ミリほど。後ろ脚が白と黒のまだら模様になっているのが特徴です。

オヤコツ地獄周辺には小さな噴気孔があり、コケ類が多く見られます。この中はとても暖かく、マダラスズにとっては布団のようなもの。コケは真冬でも青々としていて、マダラスズも快適に寒い季節を過ごせるのです。



和琴半島で見られる花（ほんの一部）と生きものたち



フクジュソウ
(4～5月)



ニリンソウ
(4～5月)



ツバメオモト
(5～6月)



ミヤマハンショウツル
(6月)



クルマユリ
(7～8月)



トリカブト
(8～9月)



ミズバショウ
(4～5月)



オオバナノエンレイソウ
(5～6月)



ハウチワカエデ
(5～6月)



ヤマブキショウマ
(6～7月)



オオウバユリ
(7～9月)



キタキツネ



エゾエンゴサク
(4～5月)



カワユエンレイソウ
(5～6月)



クルマバツクバネソウ
(5～6月)



オオダイコンソウ
(7～8月)



ミミコウモリ
(8～9月)



エゾリス

川湯エコミュージアムセンター

川湯の自然や歴史、文化とみなさんをつなぎ、そこへ誘う玄関口です。



入館無料！

開館日/開館時間

4月～10月

8:00～17:00 (無休・4月水曜休館)

11月～3月

9:00～16:00 (水曜休館)

休館日 12月29日～1月3日

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉 2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/